

今日の説教のポイント <マタイによる福音書5章13節~16節>

①「あなたがたは地の塩である」(13)。「あなたがたは世の光である」(14)。

5章の最初で、イエス様の山上の説教は、今苦しみの中にある人々に向かって「あなたがたは幸いです」と語りかけられることから始まりました。さらに10~12節では、イエス様のために迫害されている人たちのことが考えられました。しかし、今、そのような人々たちに向かって、「あなたがたは地の塩である。あなたがたは世の光である」と呼びかけられたのです。

ギリシア語では普通省略される主語「あなたがたは」がはっきりと入れられています。すなわち、「あなたがたは」が強調されているのです。ここを読んで私たちがまず感じさせられること、感じ取らなければならないことはこのことから来ています。すなわち、神様は「私たちに」大きな期待を寄せておられるのです。苦悩の中、しかもキリスト者であるが故の迫害の中にある人々。しかしその人々に、イエス様は、「あなたがたの存在、あなたがたの行為、それがこの世界にとって大事なもののですよ」と呼びかけられたのです。今の私たちも同じです。私たち信仰者は、神様から期待されている存在なのです！

私たちは、誰かから期待されていることを覚える時に、「生きていてもいいんだ、頑張るぞ」という思いになれます。逆に、誰からも期待されていないと思う時に、生きる気力が萎えて行く存在です。イエス・キリストとの出会い、聖書との出会いとは、この神様との出会い、「あなたは地の塩、世の光です」と私たちに期待して呼びかけて下さる方との出会いです。私たち誰ひとり、期待されず、意味なく生きている者はいない、そのことを知らされる出会いなのです。あとは、その神様が期待されている生き方にお応えして行くことが待っているだけ。それもまた、この神様に聞きながら生きて行けばいいことなのです。私たちがこの世に存在していること、その一番根本的なことと出会えるのがイエス・キリストとの出会いなのです。

②「あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである」(16)

これに対しては、「見てもらおうとして、人の前で善行をしないように注意しなさい」(6:1)というイエス様のもう一つの言葉を指摘しておきます。「自分が」褒めてもらえることを思っで行うのではないのです。私たちは神様が私たちに期待して下さっていることを知りました。その神様の思いにお応えして生きようとする、それが大事なのです。その時に、「神様の光」が人々を明るく照らし、「神様が」褒め讃えられるようになると言われているのです。ですから、信仰者とは信仰的な楽観主義者なのです。そして、その信仰的楽観主義者に求められることは、いつも神様を信頼し、神様の栄光のために生きようとする、ただそれだけなのです。